

# photopos 45

2017.9.11 ~ 2017.10.5

【神秘学ポエジー～風遊戯 第90集】

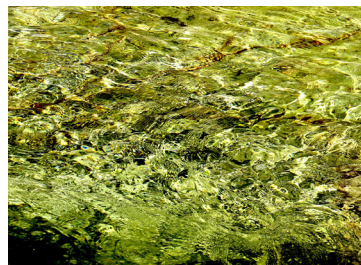
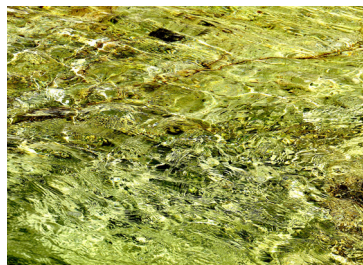
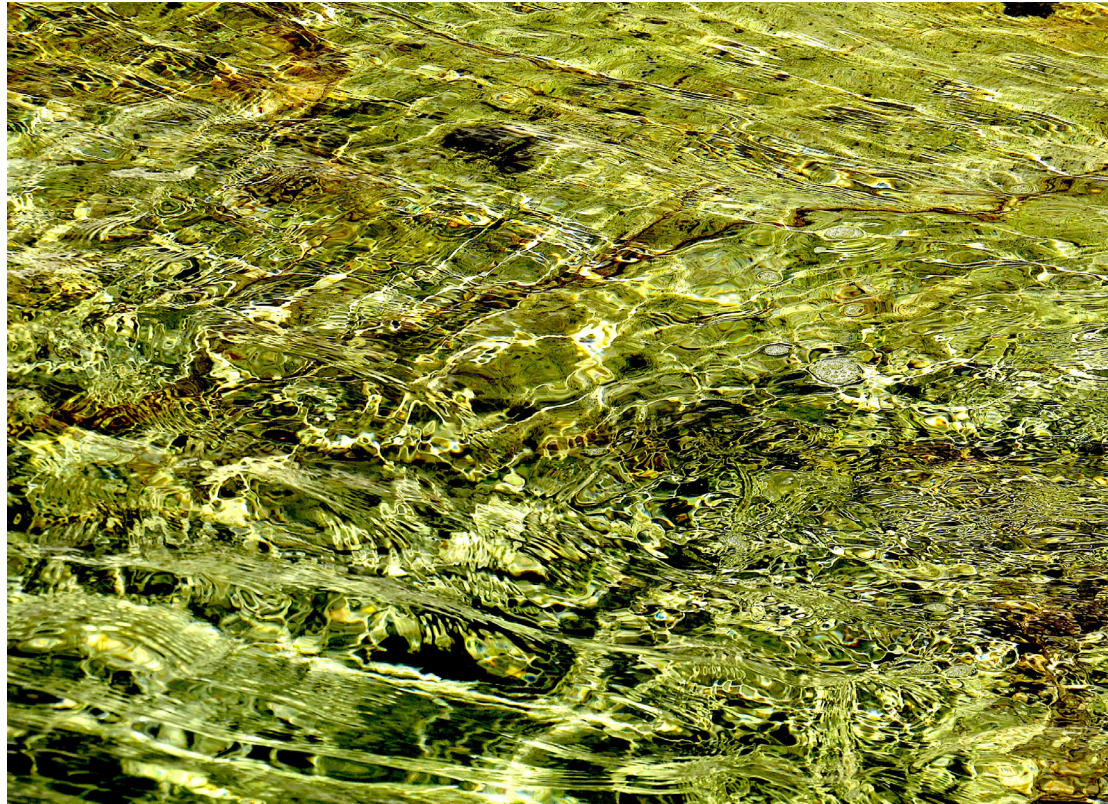
photo ヴァージョン

photopos1101-1125

神秘学遊戯団

# photopos-1101

2017.9.11



思いがけず  
それは訪れる

必要なときに  
必要な姿で

見える姿  
見えない姿で

問いの姿  
謎の姿で

秘密の書物は  
秘密の文字で書かれている

読むためには  
問いを纏わねばならない

問うためには  
耳をすまさねばならない

思いがけず  
それは訪れる

その歌を聴くためには  
その響きとともにあらねばならない

※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1102

2017.9.12



ぼくがまだ  
まえのぼくだったころ  
なにをかながえてたんだろう  
なにをさがしてたんだろう

ぼくはいま  
いまのぼくだけど  
なにをかながえてるんだろう  
なにをさがしてるんだろう

ぼくはやがて  
つぎのぼくになるけれど  
なにをかながえるんだろう  
なにをさがすんだろう

ずっとずっと  
かながえてること  
ずっとずっと  
さがしてること

なんだかすこしだけ  
いまのぼくにも  
わかるきがするんだ

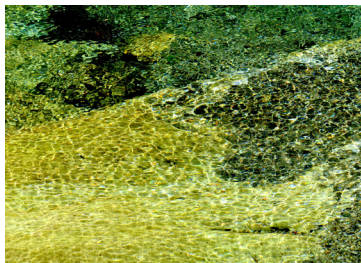
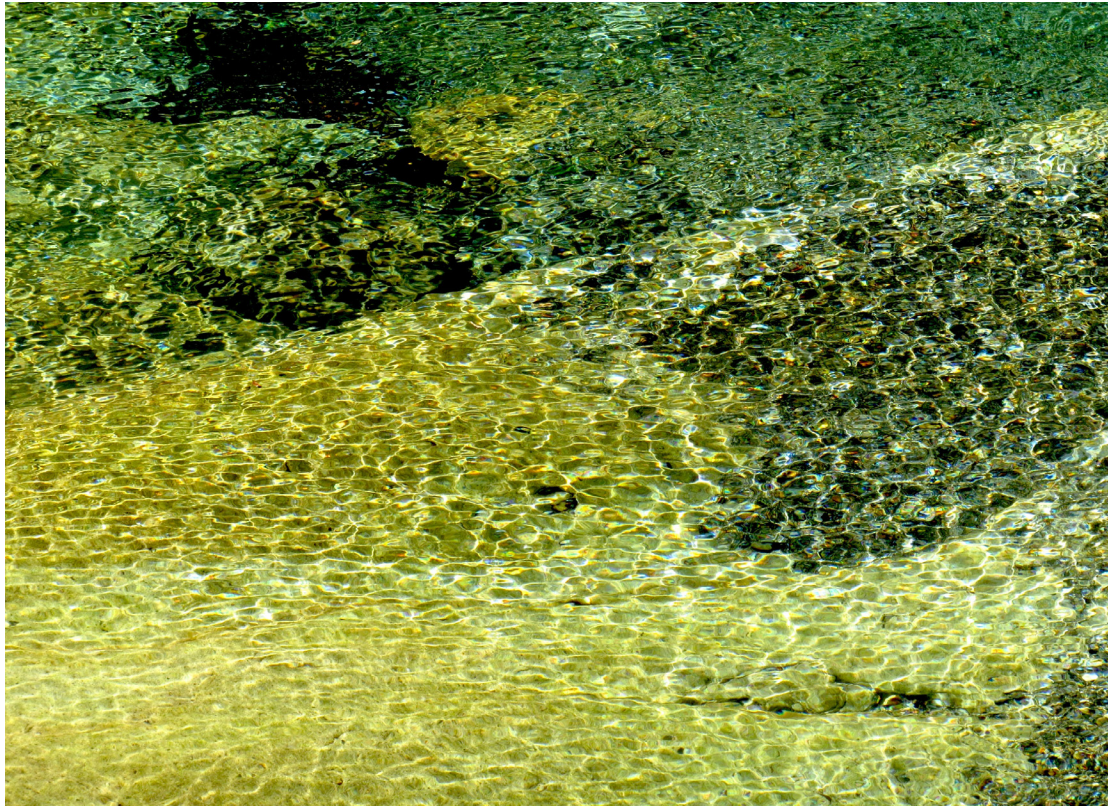


※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1103

2017.9.13



忘れたいときには  
光の底で静かに眠るがいい  
ほんとうに忘れることは  
決してできないけれど  
光の底では  
記憶は静かに結晶になる

忘れたいときには  
渦巻く水のように踊るがいい  
記憶の永遠は  
変わることはないけれど  
渦巻くうちに  
記憶の細胞は別の姿に変わる

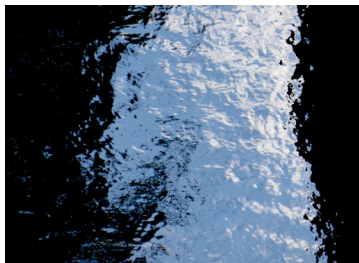
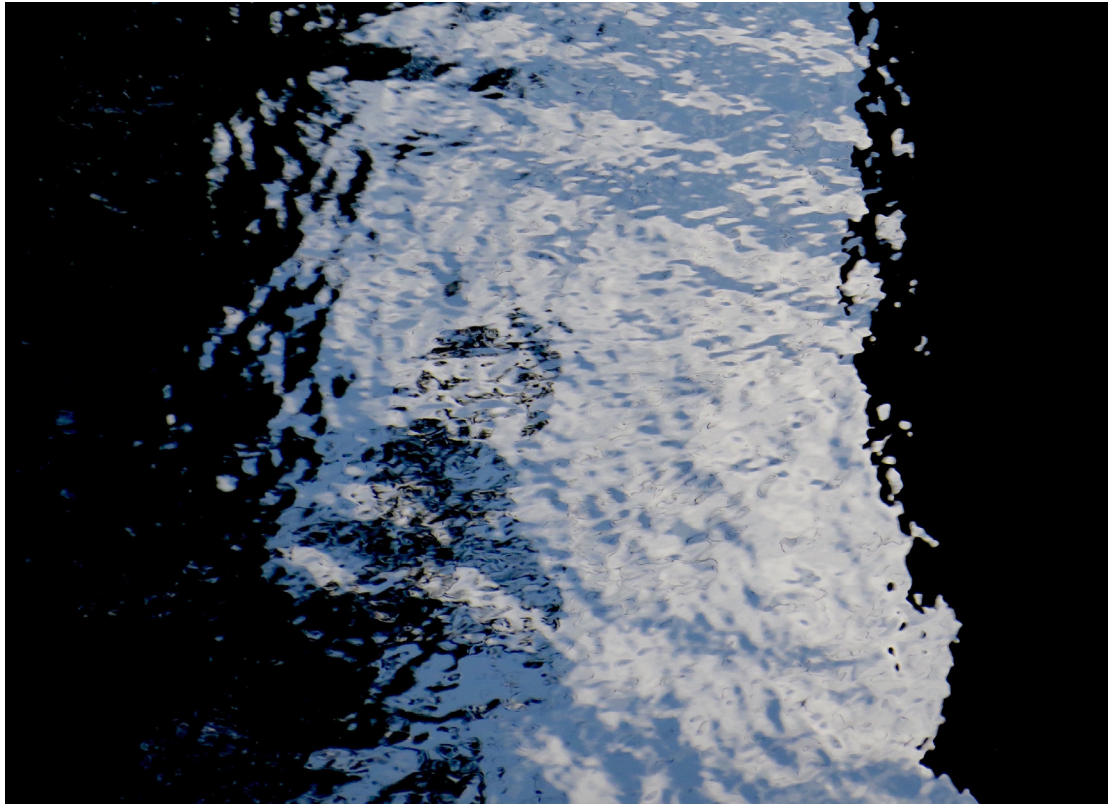
忘れたいときは  
忘れたくないことを  
美しい歌にすればいい  
繰り返し歌うならば  
それにつれ忘れたい記憶も  
やがて郷愁の旋律を奏ではじめる

※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1104

2017.9.14



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

生か死か  
それが問題  
ではないのだろう

幼きときは  
死に近い病のときも  
死は生と分かれてはいなかった

やがて死を恐れ  
遠ざけようとするが  
恐れているのは  
むしろ生のほうなのだ  
そう気づくときが訪れる

そこからは  
虚数を取り込む数学のように  
生は死によってこそ  
世界を広げていくことができる

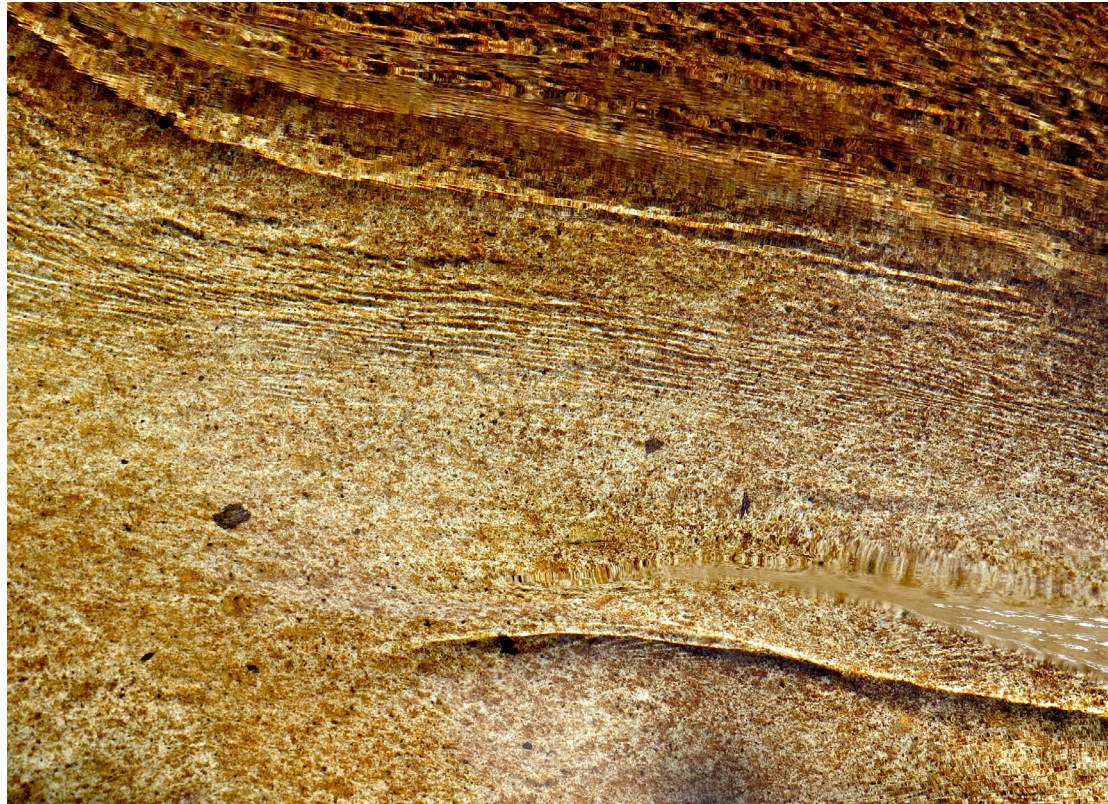
生はみずからを深めるために  
生まれ生まれ生まれて  
生のはじめに暗く  
死に死に死んで  
死の終わりに冥くなる  
そう信じて  
死を忘れなければならなかった

生をさらに深めるためには  
死を思い出さなければならない  
あえて生と呼び死と呼ぶ  
有機交流電灯を灯している  
その永遠こそ問わねばならないのだと



# photopos-1105

2017.9.15

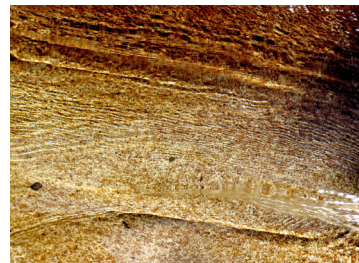
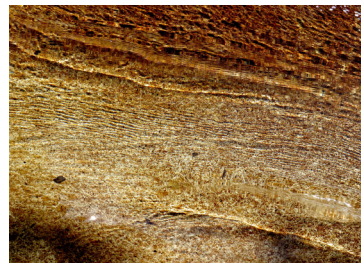
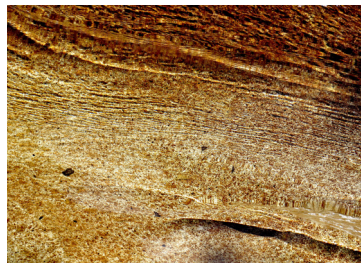


額にシワ寄せたって  
への字でやせ我慢したって  
悩みがなくなるわけじゃない

悩みは心と同じ大きさだ  
心は悩みより大きくはならないから  
悩みが尽きることはない

じぶんでは  
その大きさは見えないから  
それをひとが見るように  
見ることができればいいのだけれど

けれど悩みは  
ひとと比較できやしないから  
その大きさもどう見えるかはわからない



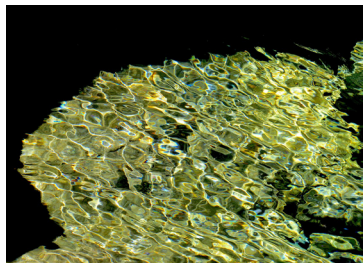
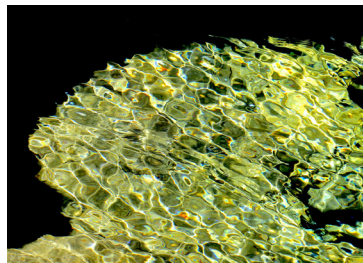
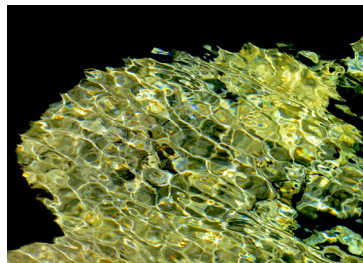
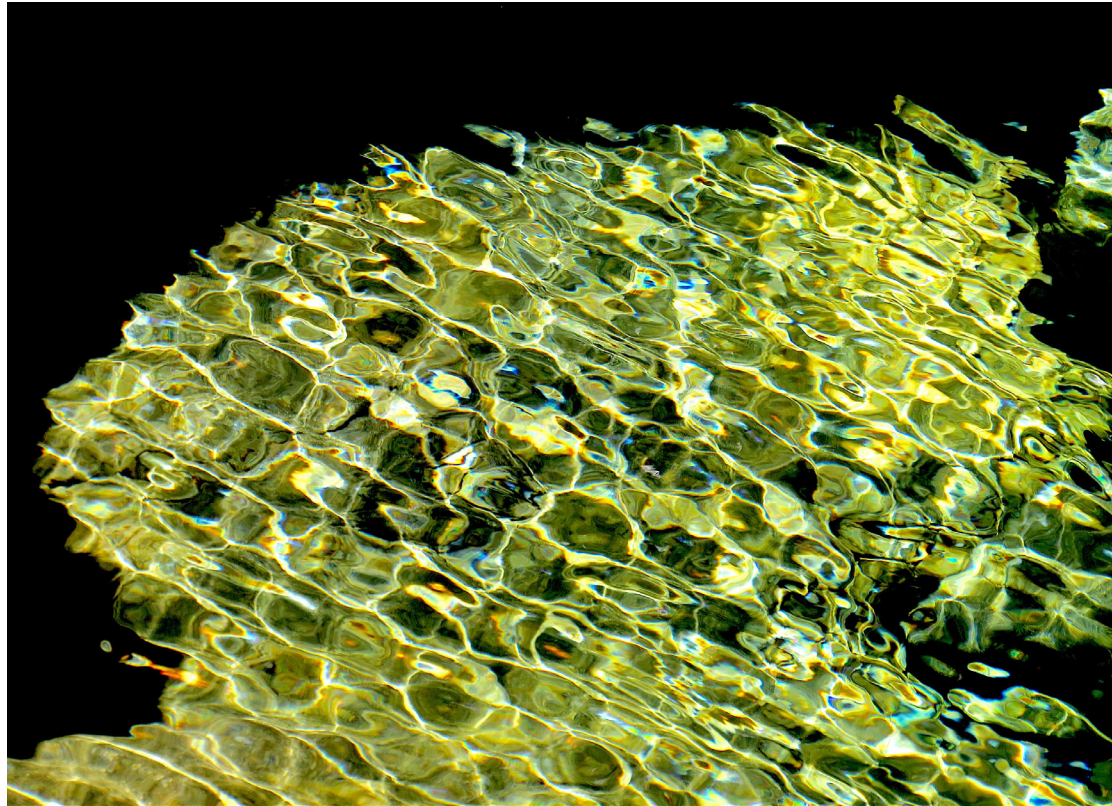
太陽や月の大きさと  
リンゴやミカンの大きさだって  
見た目には変わらないように

※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1106

2017.9.16



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

妖怪百目のように  
たくさん目があったら  
いったい何が見えるのだろう

世界が百倍見えるとしても  
見ている目だけは見えないだろうけど

千手観音のように  
たくさん手があったら  
いったい何をつかめるんだろう

千手観音は千手千眼観音  
千本の手それぞれの掌に眼があって  
どんな衆生も残らず救済しようとする  
慈悲と力を持っているというけれど

その手はじぶんをつかむことはできないし  
その目はじぶんを見ることはできない

衆生を残らず救済した後  
じぶんをどうやって救済するのだろう

それには  
目ではない目が  
じぶんを見て  
手ではない手が  
じぶんをつかまねばならないはずだ

光ではない光が  
じぶんを照らすように  
言葉ではない言葉が  
じぶんを語るように

# photopos-1107

2017.9.17



うらかおもてか  
おもてかうらか

そのあわいに  
みえる  
ひかりとかげ

白でもなく  
黒でもなく  
灰色でもない  
そんなところへ

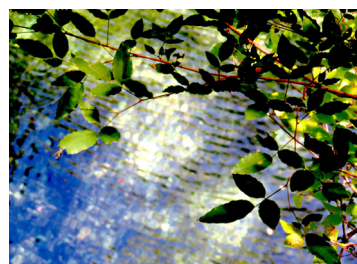
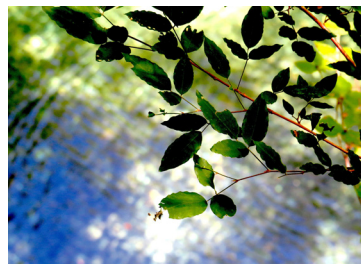
みえるみえない  
みえないみえる

そのあわいに  
みえる  
ひかりとかげ

言葉でもなく  
沈黙でもなく

地へでもなく  
天へでもない

そんなポエジーへ

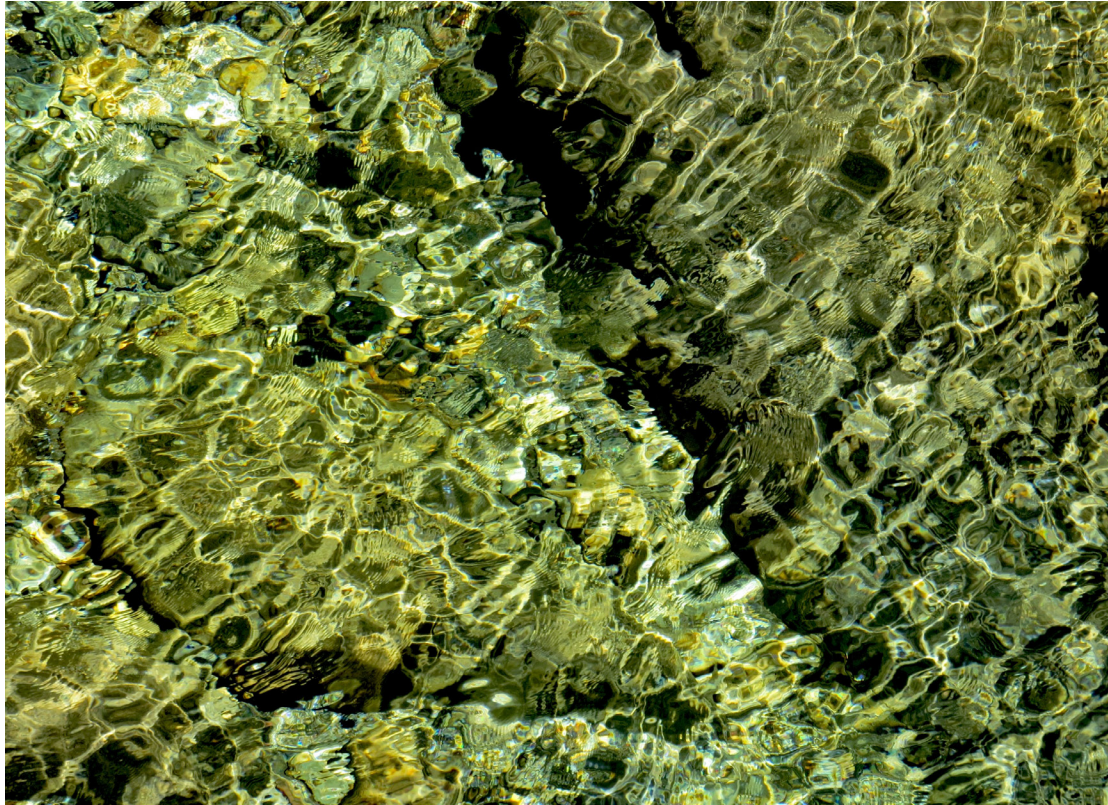


※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1108

2017.9.18



顔になる前の顔  
目になる前の目

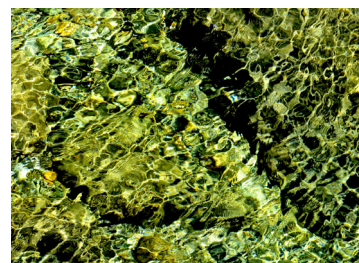
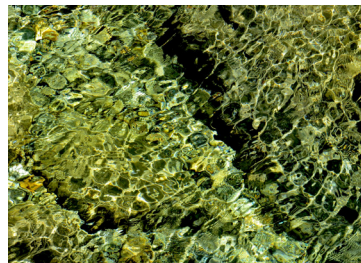
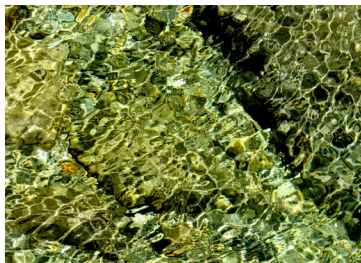
光になる前の光  
色になる前の色

形になる前の形  
数になる前の数

愛になる前の愛  
心になる前の心

まだ生まれずに  
ただ響いてくる声

夢のなかで  
夢さえみない  
深い眠りのなかで

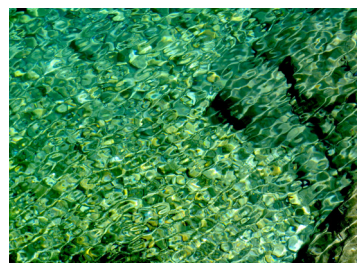
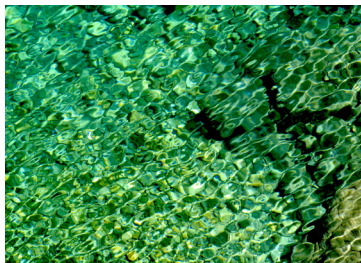
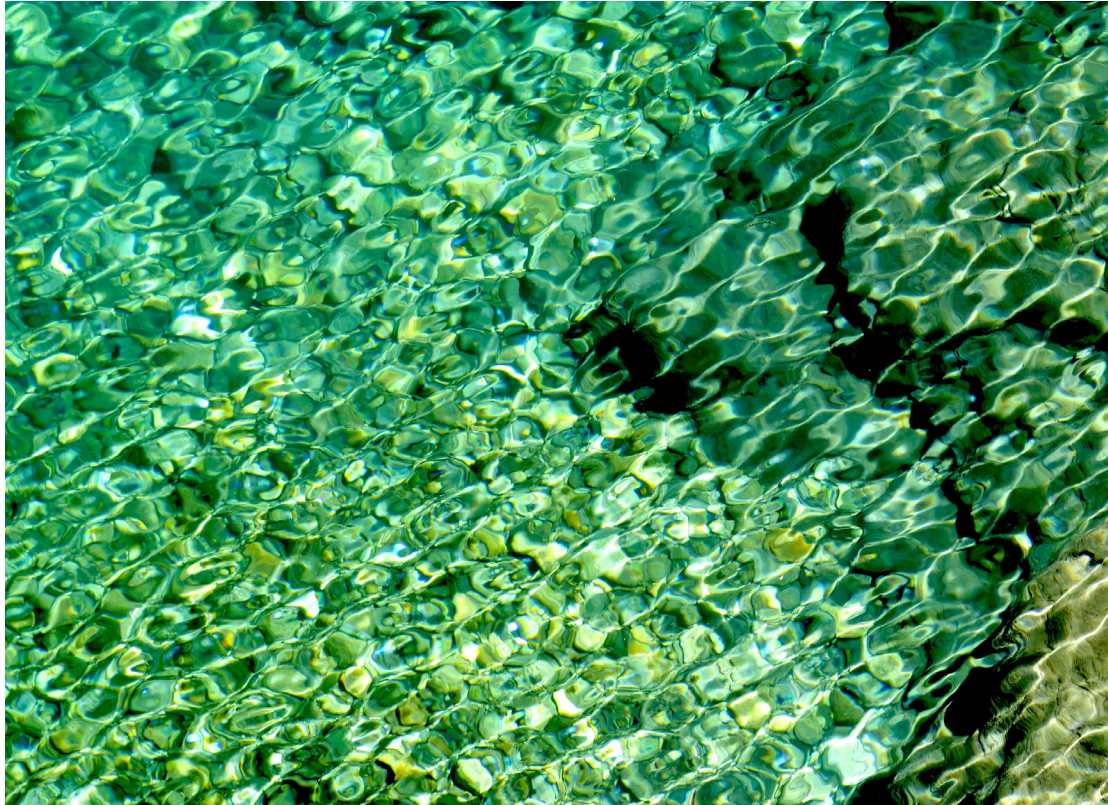


※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1109

2017.9.19



夜が明けると  
見えなかったものは  
光に照らされてくるのだけれど

夜が明けると  
星たちはどこかへ  
見えなくなってしまう  
光は光のなかにとけてしまうのだ

夜が明けると  
静寂はどこかへ  
消えていってしまう  
ひとりを聴いていた耳は  
その宇宙を閉じてしまうのだ

夜が明けると  
夢たちはどこかへ  
遠ざかってしまう  
からだから離れていられた心が  
縛りつけられはじめるのだ

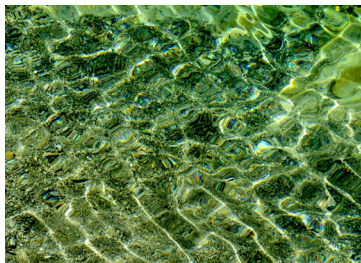
夜が明けると  
想像力はどこかへ  
失われてしまう  
見えないものを見ていた力が  
見える力に負かされてゆくのだ

※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1110

2017.9.20



あの  
懐かしい

硝子の破片を光に透かし  
天の彼方を見ていた頃のように

音の欠片を鳴らして  
異世界へと通信していた頃のように

不思議な匂いを辿って  
野山を駆け巡っていた頃のように

こんな窮屈な身体の中には  
閉じ込められていなかった頃のように

魂よ  
解き放たれてあれ！

※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1111

2017.9.21



恋せよ！  
空の彼方に  
届ける想いを  
夕まぐれの  
風にのせて

恋せよ！  
海の彼方に  
ささやく言葉を  
夕まぐれの  
波にのせて

恋せよ！  
夢の彼方に  
描かれた詩を  
夕まぐれの  
光にのせて

恋せよ！  
私の彼方に  
忘れられた記憶を  
夕まぐれの  
永遠にのせて

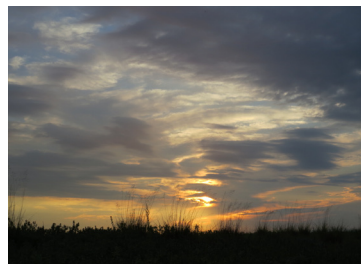
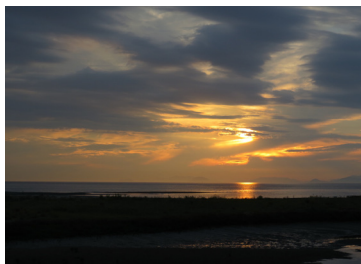


※松山市・重信川河口にて



# photopos-1112

2017.9.22



※松山市・重信川河口にて

どこから  
アリアのように  
光の歌が聴こえるとき

時は帰ってゆくのか  
懐かしい場所へ  
思い出の旋律を奏でながら

けれど  
私は過去へは往かない  
新たなアリアを歌うのだ  
夕暮れに飛ぶ鳥は  
過去からしか訪れないから

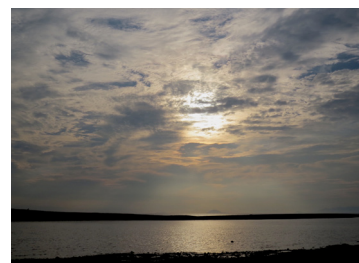
たとえ  
闇に沈むなかでも  
夜明けを待つことなく  
静かに確かに歩いていよう

そして  
新たなアリアを歌うのだ  
みずからを光として  
みずからを時として



# photopos-1113

2017.9.23



※松山市・重信川河口にて

さあ  
空は広がっている  
どこへ向かって歩こうか

胡桃の殻に閉じ込められていたとしても  
じぶんは天地の王になったつもりになれる  
悪い夢さえ見なければ・・・  
そう語った主人公がいた

じぶんが  
閉じ込められているかもしれない  
そんな場所を想像してみる

見上げている空をどうみるか  
開かれていると見るか  
閉じ込められていると見るか

身体はどうだろう  
世の中はどうだろう  
日本はどうだろう  
地球はどうだろう  
太陽系はどうだろう  
銀河系はどうだろう

境域はどこにでもあり  
門はどこにでもある  
境域を超え門を開けるための鍵は  
じぶんで見つけなければならぬのだが  
鍵というものそのものが  
悪い夢にすぎないこともあるだろう

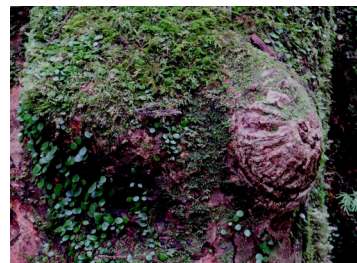
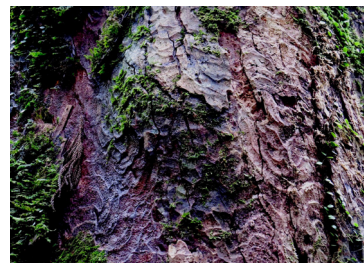
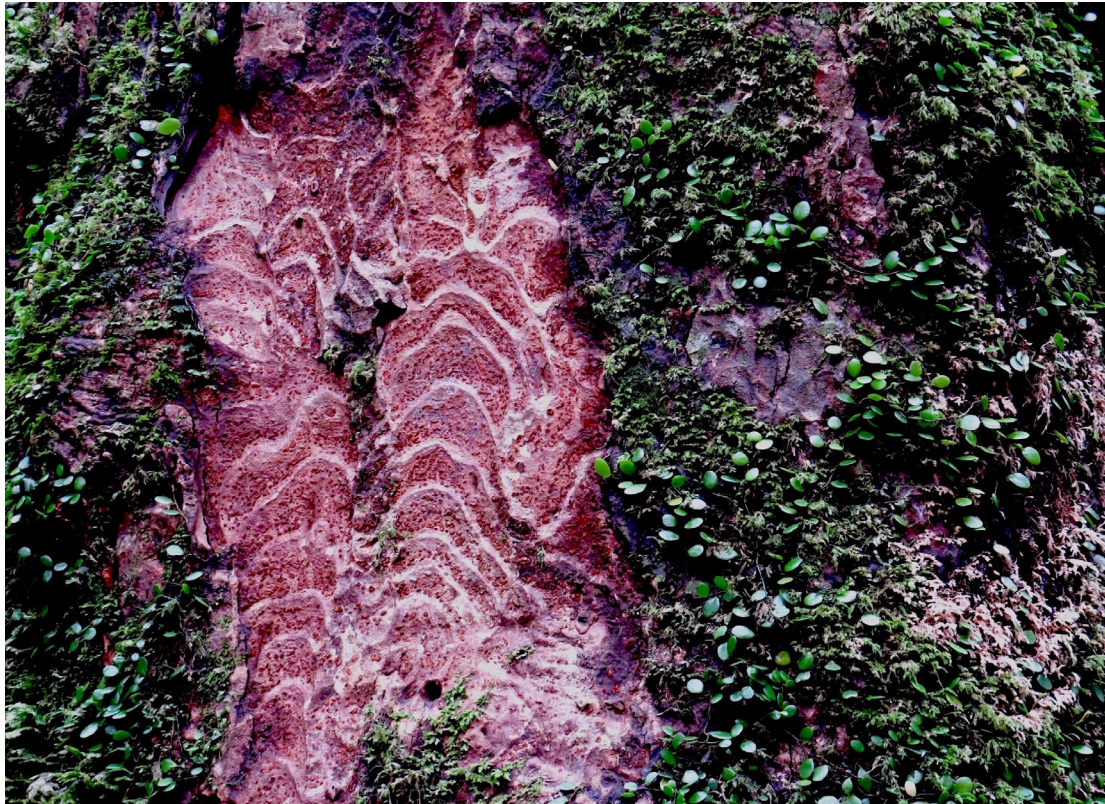
どんな世界も無限なのだが  
牢獄にしてしまう自由もあるのだから

さあ  
空は広がっている  
どこへ向かって歩こうか



# photopos-1114

2017.9.24



※愛媛県久万高原町・岩屋寺にて

どんな姿で  
現れようと  
ぼくには  
きみがわかる  
戯けてたって  
きみはきみさ

政治家たちは  
次々と代わるけれど  
きみの代わりはいやしない  
国や民族や宗教が  
どんなに変わっても  
きみのほんとうの姿は  
きみでしかない

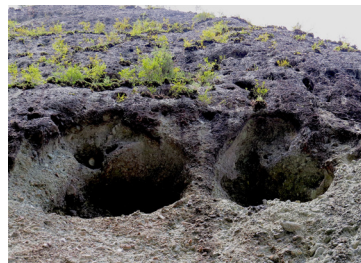
ひとつだけしかない  
メロディーのようなものさ  
きみの奏でる音楽は  
きみだけの響きなんだ  
ほかのだれにも弾けやしない

どんな時代に  
どんな顔をして  
現れようと  
ぼくには  
きみがわかる  
知らない顔をしてたって  
仮面を被っていたって  
きみはきみさ



# photopos-1115

2017.9.25



見ているぞ  
見られているぞ

見えるものだけを  
見ているのではないぞ  
見えていないものも  
見られているぞ

神々は人のなかにおいて  
己の目は己をじっと見ているのだ  
気づいていてもいなくても  
じっと見ているのだ

己のなかで  
罪なきものは  
石を投げよ  
罪あるときは  
石はみずからを打つのである

見ているぞ  
見られているぞ  
見ているのは己  
見られているのも己なのだ

※愛媛県久万高原町・岩屋寺にて



# photopos-1116

2017.9.26



まぶたを閉じれば  
ほら聞こえてくる

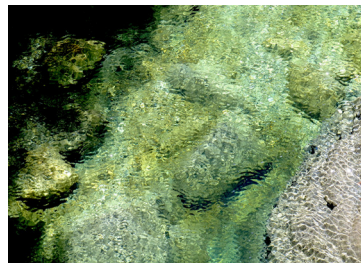
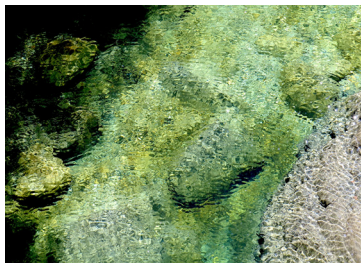
失われたあの声  
失われたあの言葉  
失われたあの想い

まぶたを閉じれば  
ほら見えてくる

失われたあの色  
失われたあの記憶  
失われたあの永遠

まぶたを閉じれば  
ここにいる場所は  
からだの境を超えて  
どこでもない場所へ

ここはその場所となり  
いまはその時となり  
わたしは存在の源へと  
ひらかれてゆく



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



photopos-1117

2017.9.27



光だって迷うのさ  
迷わない光なんてありはしない  
行方を失って  
迷路を描き続けることだってある

それでも光の魔法は  
苦しみを色に変え  
闇のなかの光にもなり  
すべてを照らしながら  
みずからを変えてゆくこともできる

光の魔法にだってタネがある  
けれどもそのタネは  
そのまま花に変われるわけじゃない  
種は成長していかなければならない  
そのための迷路でもあるのだ



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1118

2017.9.28



黙っていても  
黙っているからこそ  
伝わるものがある

言葉は  
沈黙に引かれた線だ  
分けられない思いが  
そこで分けられてしまう

言葉は  
籠に閉じ込められた鳥だ  
空へと飛翔する思いが  
そこに閉じ込められてしまう

けれど言葉は  
ときに沈黙を支えてもいる  
そのたよりない小さな器のなかに  
せいっぱいの生命の水を容れて

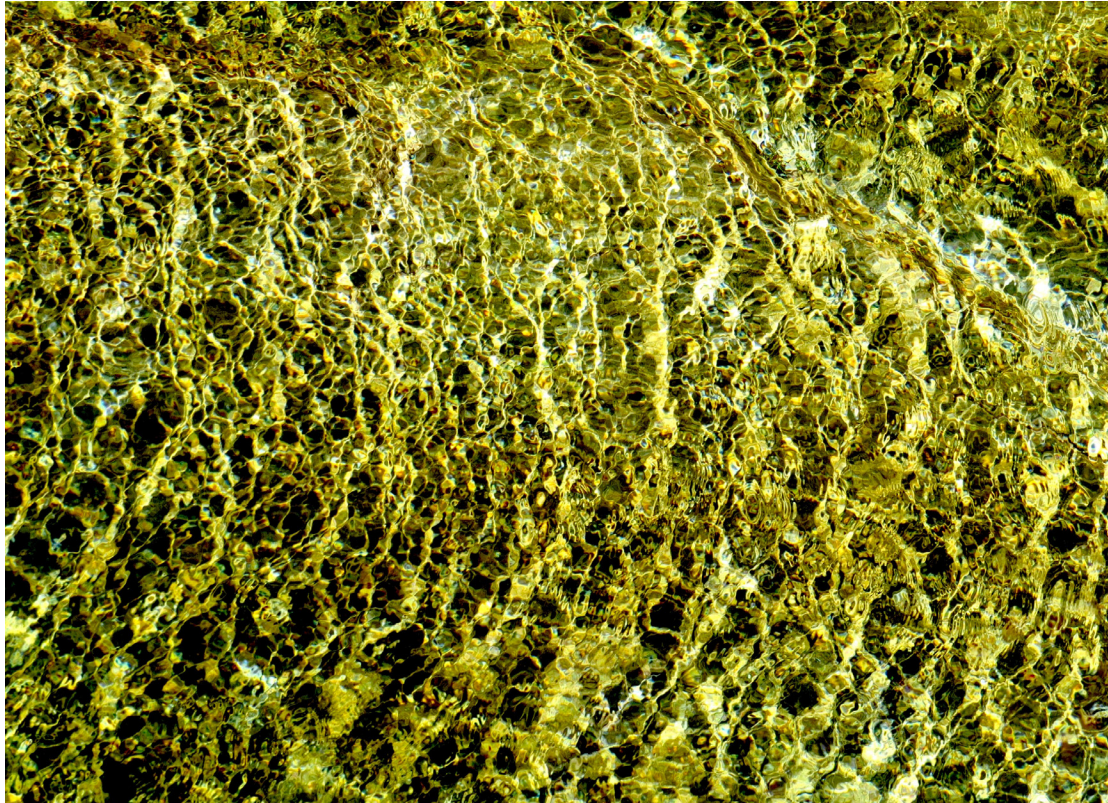


※愛媛県久万高原町・面河溪にて



photopos-1119

2017.9.29

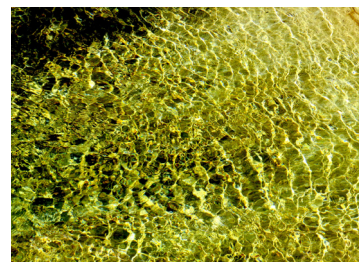
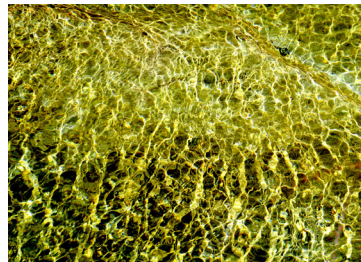
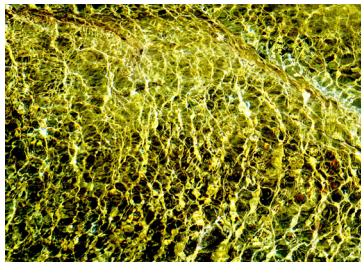


世界は光でできているのに  
私は光になることができないでいる

光を両手で掬おうとして  
むなしく光の飲み物に手をのぼすばかりだ  
ときには光の織物をからだいっぱい浴びながら

言葉が世界をつくったはずなのに  
私はその言葉を聞きとれないでいる

言葉で世界をとらえようとして  
むなしく言葉を紡いでみるばかりだ  
ときにはそれを歌にかえながら

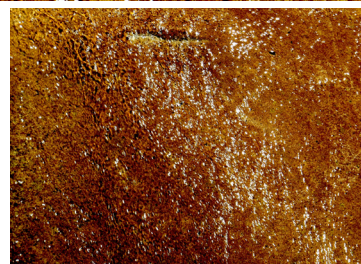
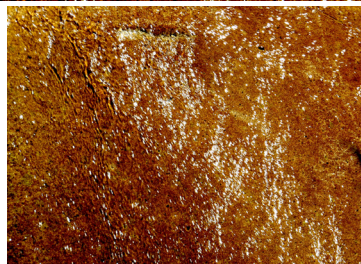
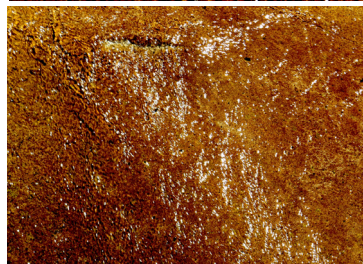
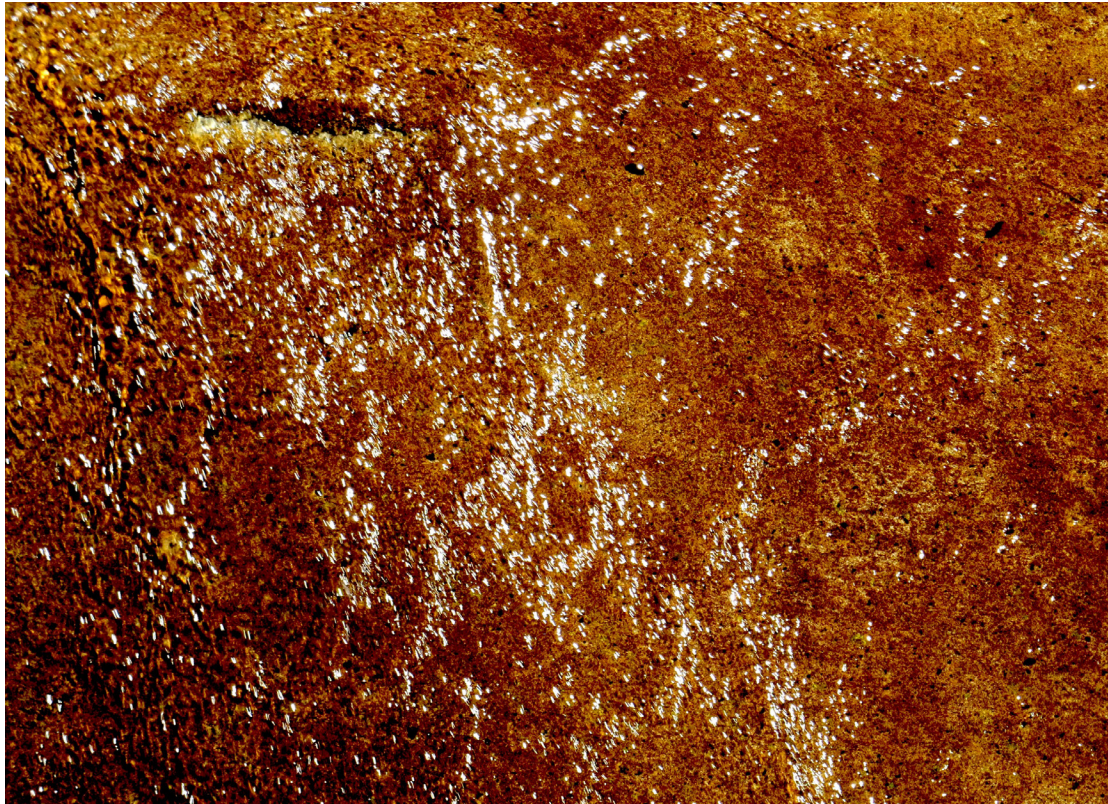


※愛媛県久万高原町・面河溪にて



# photopos-1120

2017.9.30



泣きたいときは  
光のように泣けばいい

ちぐはぐだって  
あべこべだってかまわない  
涙に論理は似合わない

けれど論理の人にも涙はあるだろう  
論理の底にも涙は流れているだろう  
論理も生きた言葉には違いないのだから

光は闇を照らすだろう  
闇の涙にもなるだろう

泣きたいときは  
光のように泣くことだ  
ただひたすら泣くことだ

私を涙で洗うのだ  
世界を涙で洗うのだ

※愛媛県久万高原町・面河溪にて



photopos-1121

2017.10.1



見ようとする  
見えなくなる

聞こうとする  
聞こえなくなる

知ろうとする  
わからなくなる

けれども  
隠されていることで  
見えてくる  
聞こえてくる  
そして  
気づけるものが  
ありはしないか

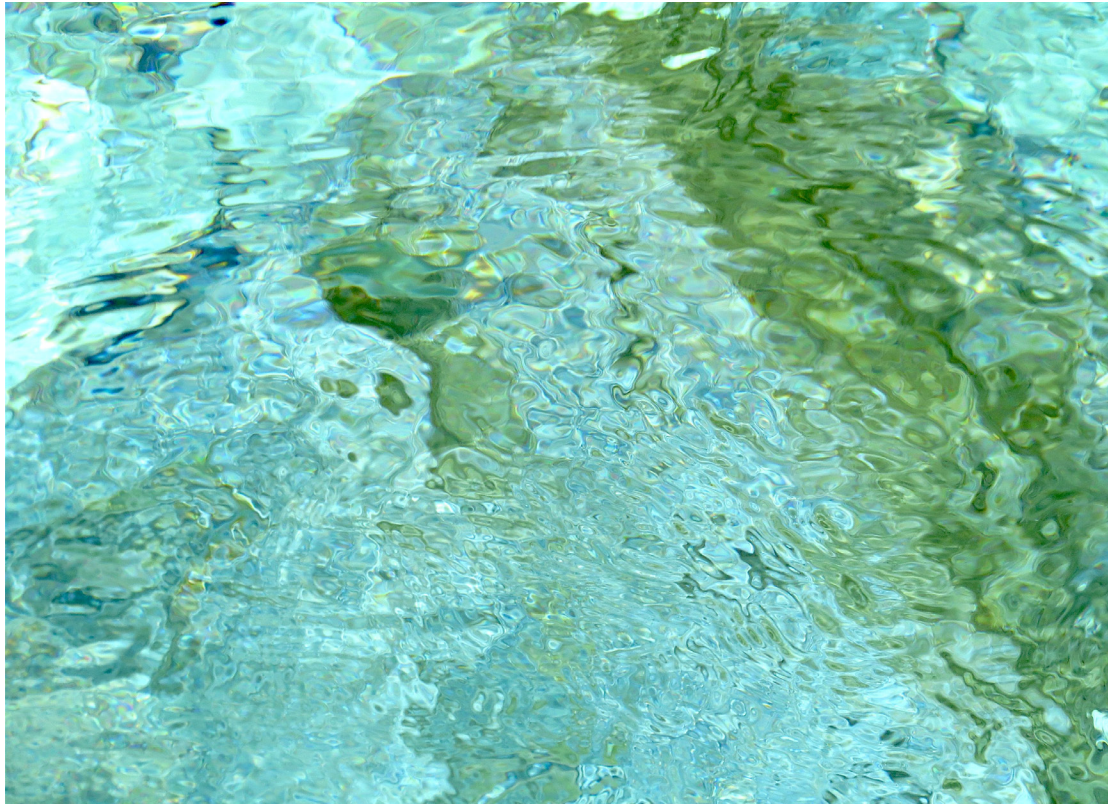


※高知県仁淀川町・安居溪谷の思い出から



# photopos-1122

2017.10.2



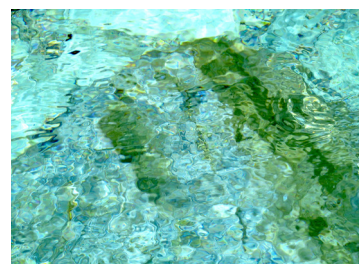
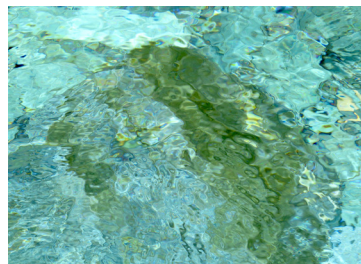
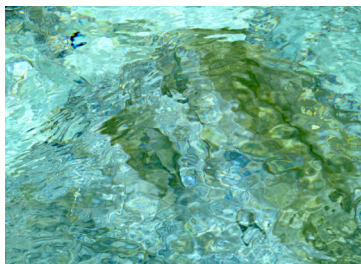
道化師は現れる  
現の隙間から  
夢の仮面を被り

道化師は踊る  
仮面の奥に  
心の襞を隠し

道化師は歌う  
聞こえない声で  
誰も知らない旋律にのせて

道化師は夢みる  
星たちのめぐりのなかで  
愛という謎を追う果てない旅を

道化師は飛翔する  
見えない翼を広げ  
どこにもない虚空へと

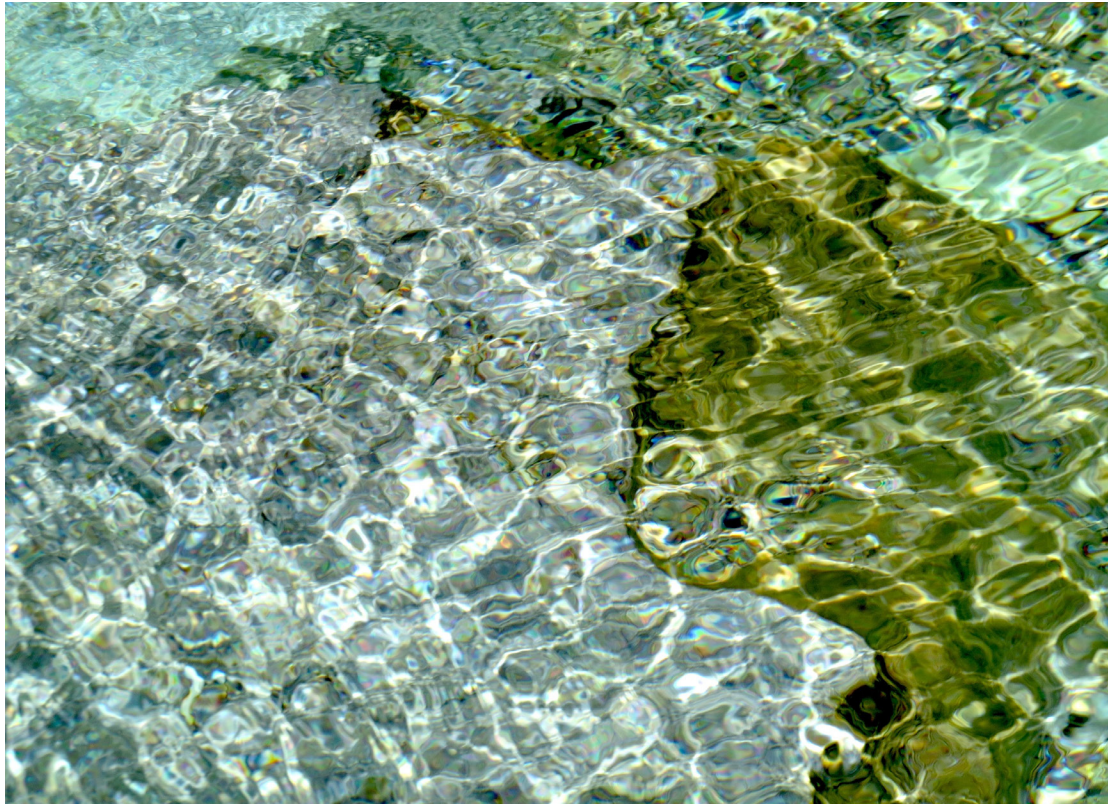


※高知県仁淀川町・安居溪谷にて



# photopos-1123

2017.10.3

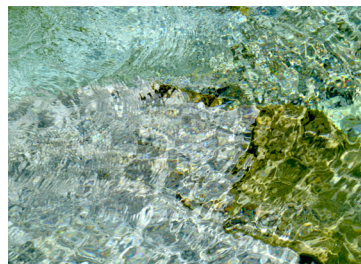
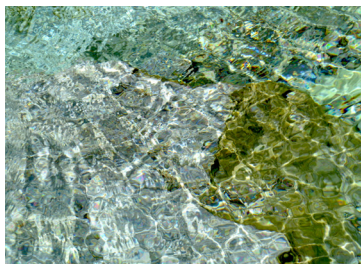


魔のものよ  
我が内なる魔のものよ  
汝は探しているのか  
その姿を解き放つものを

魔のものよ  
我の影なる魔のものよ  
汝は我を模しているのか  
見えないところで聞こえない声で

魔のものよ  
我に問いかける魔のものよ  
汝は謎かけしているのか  
我と汝の不可思議なかたちを

魔のものよ  
我を惑わす魔のものよ  
汝は何を見ているのか  
我と汝の彼方にある場所か



※高知県仁淀川町・安居溪谷にて



# photopos-1124

2017.10.4



時が生まれたのは  
悲しみを静かに  
受けとめるため

そして  
時のなかで  
悲しみは  
別のものに  
姿を変えてゆく

私が生まれたのは  
喜びをからだで  
受け入れるため

そして  
私のなかで  
喜びは  
別のものに  
姿を変えてゆく

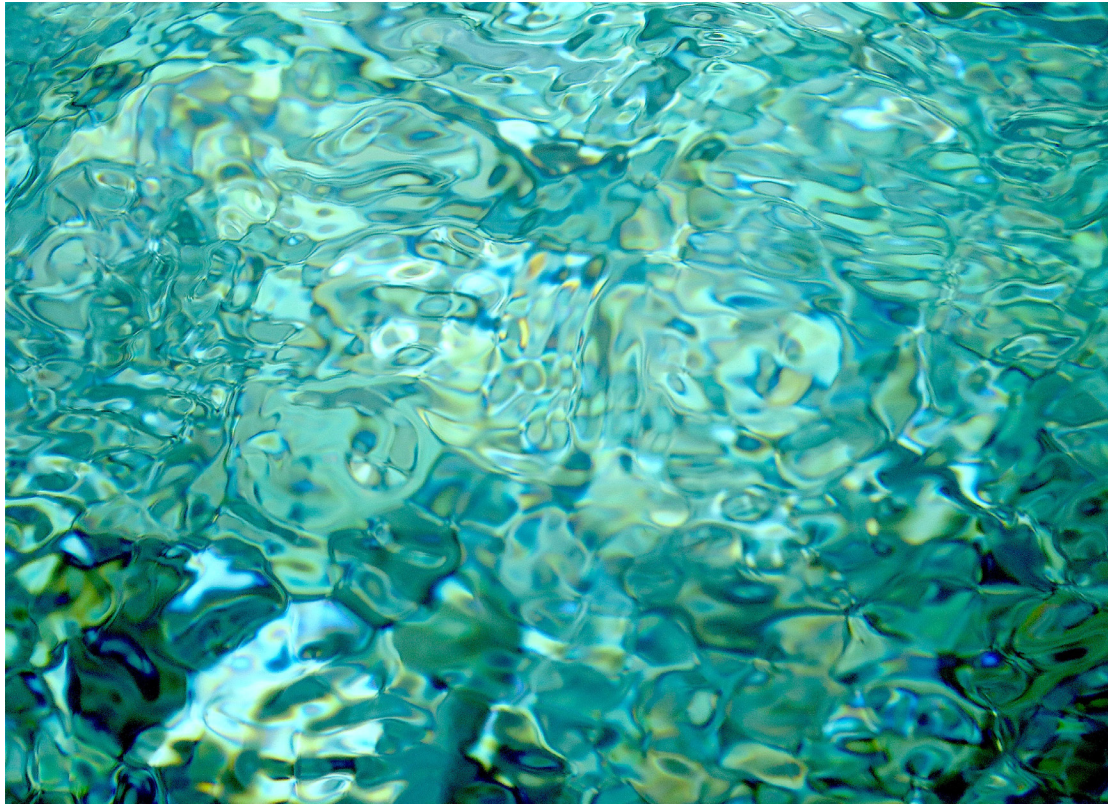


※高知県仁淀川町・長屋の沈下橋にて



# photopos-1125

2017.10.5



※高知県仁淀川町・長屋の沈下橋にて

好きが  
どこからくるのか  
それを知りたくて  
好きのことをじっと考えてみる

すると  
ひとつひとつの好きの理由が  
理由ではなくなっていく気がしてくる  
理由の理由が見えなくなってくるのだ

なぜ好きなんだろう  
なぜはいつも最初の場所に戻ってくる

嫌いが  
どこからくるのか  
それを知りたくて  
嫌いのことをじっと考えてみる

すると  
ひとつひとつの嫌いの理由が  
理由ではなくなっていく気がしてくる  
理由の理由が見えなくなってくるのだ

なぜ嫌いなんだろう  
なぜはいつも最初の場所に戻ってくる

好きと嫌いの境はあるだろうか  
その境のことをじっと考えてみる

すると  
好きと嫌いは  
メビウスの環のように  
いつのまにかくると  
つながっているのに気づく

そして  
好きも嫌いも  
賛成も反対も  
じぶんの深い場所から  
湧いてきているように思えてくる  
その場所はどこにあるのだろうか